

田畑を活用した耕畜連携の推進

ねらい

自給飼料生産は、トウモロコシ(夏作)とイネ科牧草(冬作)が主であるが機械の共同利用やコントラクターへの収穫委託など過剰投資を避けた効率的な利用体系である。

最近、畜産農家からは嗜好性が良いイネWCSに対する需要は増加傾向にあるが耕種農家の経営判断から作付は伸び悩んでいる。

そこで、飼料作物を緑肥利用している耕種農家において新たな飼料作物の作付体系の実証試験を行い、農畜双方での理解浸透と自給飼料生産に対する意識醸成が行えるよう、耕畜連携の推進を図った。

活動地域・対象

活動地域：県内全域

対象者：畜産農家

普及活動の目標

自給飼料作物の生産振興

目標に向けた活動概要

- 自給飼料生産における耕畜連携の普及啓発
 - ・県内の畜産農家を戸別訪問し、課題・問題点の聞き取りを行った。
 - ・関係団体等が実施した研修会、講習会等に参加、資源循環による耕畜連携を推進した。
- 緑肥利用に適した作付体系及び品種の検討
 - ・飼料用トウモロコシの実証展示ほ場を設置、品種検討を行うとともに耕種農家での作付けを推進した。
- 飼料用トウモロコシの生産拡大
 - ・飼料生産コントラクター組合に対して飼料作物生産拡大を働きかけた。

普及活動の成果

- ①高齢化により年々生産者が減少傾向にある中、個別訪問の結果、県内乳業メーカーの移転、生乳の安定生産への不安感、専門農協が行う育成牛の飼育外部化への期待感、自給飼料生産、牛群検定成績の活用等生産コストを削減し、生乳の安定生産に向けた取組へ支援が必要となっている。
- ②トウモロコシの茎葉は緑肥、子実は飼料に利用できる専用収穫機を農研機構（革新工学センター）と共同で開発、トウモロコシによる緑肥利用を行っている耕種農家において実証試験を行うとともに、子実トウモロコシについて、本県の気象条件に合致した品種を選定した。
- ③自給飼料の生産拡大では、飼料用トウモロコシ、稲WCSの生産拡大を生産者等に働きかけた結果、酪農コントラクター組合が汎用型微細断飼料収穫機を導入、その他難防除害虫の注意喚起・発生監視・防除について関係機関と連携して行った。

表1 トウモロコシ雌穂多収量品種比較試験成績

品種名	RM	播種日	苗立率 (%)	出穂期	収量調査日	熟期	雌穂乾物率 (%)	乾物雌穂重 (kg/10a)
タカネスター	113	4月4日	94	6月13日	8月2日	黄熟中期	47.5	1,182
KD641	114	4月4日	97	6月13日	8月2日	黄熟中期	55.4	1,093
パイオニア115	115	4月4日	100	6月13日	8月2日	黄熟中期	53.2	1,175
TX1334	115	4月4日	97	6月13日	8月2日	黄熟中期	47.5	1,059
スノーデント115	115	4月4日	88	6月13日	8月2日	黄熟中期	34.8	804
ゆめそだち	125	5月16日	94	7月12日	8月17日	黄熟初期	45.6	850
パイオニア120	120	5月16日	88	7月12日	8月17日	黄熟中期	53.9	866
TX1277	124	5月16日	88	7月12日	8月17日	黄熟中期	46.2	773
スノーデントおとは	127	5月16日	94	7月14日	8月17日	乳熟期	31.1	577
スノーデントSH4812	125	5月16日	94	7月14日	8月17日	黄熟初期	49.9	840

(畜産研究課調べ)



専用収穫機の開発試験風景



難防除害虫の発生状況調査



水田活用による飼料生産

用語 酪農コントラクター組合とは

説明 畜産農家の委託を受けて牧草等（エサ）の生産・収穫を請け負うために組織された組合。

今後の発展方向

高品質飼料生産技術や供給体制の確立を支援し、畜産振興・耕畜連携を推進していく。

関係者からの声

関係者・関係団体

- ・天候不順でトウモロコシの生産も不安定。
- ・地域の畜産振興を図るには、関係者の協力が必要。

農家

- ・県内乳業メーカー移転や、育成牛飼育外部化など生乳の安定生産に向けた取り組みが必要。
- ・環境対策等への経費支出・投資が増加し、規模拡大にまでつながらない。
- ・生産者が減少・広域化する中、収穫機の修繕費が増加、補助事業実施も補助残負担は重荷。

高度技術支援課 連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922